

職員による自己評価

A環境面

バリアフリー化はどちらともいえない
職員配置は適切だとはいえない

B児童への支援内容

毎日の打ち合わせや振り返りは行えている
各活動の内容を固定化しないように工夫が
できている
ガイドラインについての認識が低い

C関係機関との連携

相談支援事業所以外の関係機関との連携は不
足している。

D保護者への説明責任・信頼関係

保護者同士の交流の場が少ない
運営規定・支援内容・利用者負担などについて
の説明は改善の余地がある。

E非常対応

非常災害に対する訓練は履行されている
委員会を設置することで、各マニュアルの改善
はなされている

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化については問題視していない
もう少し広さがあるといい
職員の配置数や専門性は適切である

B児童への支援内容

プログラムは固定化されず工夫がある
計画も個人にあったものになっている
交流はあまり求めている

C事業所からの情報発信

面談で子どもの様子を聞いて一緒に解決してく
れるのは心強い
父母会や保護者同士の連携はないが、コロナの
影響もある
個人情報には配慮されている
情報が足りないという顕著な意見はない

D非常対応

訓練実施に関する情報が保護者に伝わっていな
いことがある

事業所内での分析

【共通点】

- ・プログラムが固定化されないように、工夫がされている。保護者も満足している
- ・保護者同士の交流を持つ機会がない
- ・バリアフリーについては、問題視していない

【相違点】

- ・災害時訓練に関しては、職員は実施したという意識はあるが、保護者にはその結果が知らされていない
- ・職員の配置数や専門性について、保護者は適切と考えているが、職員はそうではないと考えている
- ・ガイドラインや各種マニュアルなどへの理解は、職員はまだだと認識しているが、保護者の方はよく理解できていると認識している。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・プログラムに対して固定化されないように工夫がされており、保護者からもご理解と納得をいただいている
- ・常に子どもたちの様子を保護者と確認し、個別の配慮等をできるような環境になっている
- ・職員一人ひとり、療育活動への意識が高い

事業所の改善点

- ・ガイドラインや各種マニュアルの周知徹底に関しては保護者からはあまり問題ないと評価されたが、職員の方は認識が低いと自覚している
- ・虐待防止及び身体拘束に関する取り扱いを定期的に勉強する機会を持ち、支援計画への記載や記録を取ることを徹底する
- ・昨年と同様の項目で改善すべき点が指摘されている

事業所の改善への取り組み

- ・ガイドラインや各種マニュアルなどに触れていく機会を作っていく。
- ・研修等で学ぶ機会を作り、職員一人ひとりの専門性を高める。
- ・子ども一人ひとりの個別支援計画の申し送りと個別支援会議の時間を、ミーティング時以外に定期的に設ける。
- ・保護者同士の連携をとるために、保護者会等の機会を設ける。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の評価と自分たちの評価の共通点や相違点を、客観的に捉えることのできる良い機会となった。特に相違点については、自分たちがどのようなすれば保護者の満足につながるのかを職員一人ひとりが考えられるようにしていきたい。まだまだ若い職員が多く、ガイドラインやマニュアルを学ぶ機会が多く必要だということも改めてわかった。プログラムに関しての向上心がある職員が多いので、小学部のチームとしてお互いに競い合い、高め合ってほしい。

最後になりますが、保護者の皆様方のご協力に感謝申し上げます。